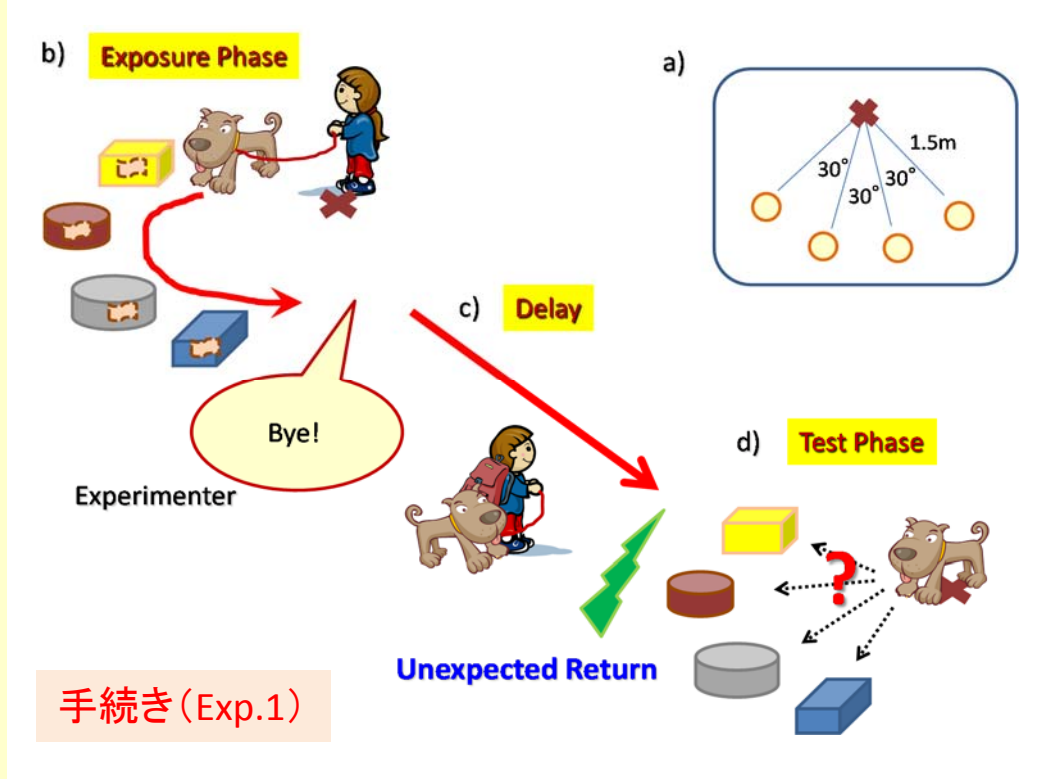
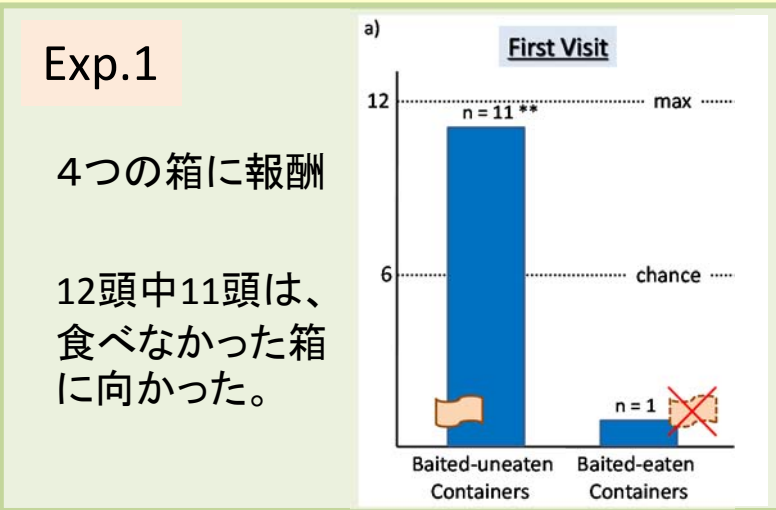


Fujita, K., Morisaki, A., Takaoka, A., Maeda, T., & Hori, Y. (2012). Incidental memory in dogs (*Canis familiaris*): adaptive behavioral solution at an unexpected memory test. *Animal Cognition*, 15, 1055–1063. (DOI 10.1007/s10071-012-0529-3)

記録の偶発性は**エピソード記憶**の重要な性質の1つであるが、**動物の偶発的記憶の利用能力**はほとんど調べられていない。**実験1**では、イヌに報酬の入れられた4つの箱を全て訪問させ、そのうちの2つだけを食べさせた後、帰り支度を装って散歩に連れ出し、**その間に箱をカラにし**、十分な時間の後に思いがけず帰還させて、箱を自由探索させた。すると、多くのイヌは、先刻食べ残した箱を優先的に訪問した。**実験2**では、報酬を2個にし、残る1つの箱には石、もう1つはカラにして、報酬のうち1個だけを食べさせ、同様のテストをした。するとイヌは食べ残した報酬のある箱に向かった。これらは、**イヌが偶発的に記録したwhatとwhereの情報を後刻取り出して利用できることを示している**。



**イヌにおける偶発的記憶の利用**



**Exp.2**

2つの箱に報酬  
1つは石ころ  
1つはカラ

多くのイヌは、食べ残した報酬入りの箱に向かった

